女性の視点を活かした
避難所運営

避難所生活では、「まず食べ物」というニーズが強いことから女性への配慮が後回しになる傾向にあります。熊本地震の教訓を踏まえ、性別によるニーズの違いなど、様々な立場の人々に配慮し、男女共同参画の視点にたった運営を検討しておきましょう。

熊本地震の教訓

熊本地震では、過去の震災での経験や報告書を参考に、内閣府の避難所チェックシートを活用した「避難所キャラバン」が実施されました（実施主体：熊本市男女共同参画センターはあもにい）。

ヒアリングの結果

- 女性用品（女性用下着、生理用品等）が届いても、男性が配布していたため、もらいにくかった。
- 避難所に授乳や着替えの場所、女性専用の物干し場がなく、プライバシーが確保されていない。
- 避難所のリーダーに女性が少なかったため、女性が必要とする物資の要望が出しにくかった。

ヒアリング風景

環境改善の取り組み例

1 性暴力・DV防止啓発活動

熊本市

発災の翌日から地震後の混乱に乗じた性被害を未然に防ぐため、啓発ポスター・チラシが作成され、避難所に掲示のうえ注意喚起が促された。

啓発ポスター

2 女性用品の配布方法の工夫

熊本市

被災者の女性が、気兼ねなく女性用品を手に入れることができるよう、女性トイレの手洗い場や個室の中に常備。

トイレに置かれた女性用品

3 女性による自主運営の避難所

益城町

女性リーダーを中心に、自主運営が行われていた避難所。昼間は間仕切り用のカーテンはすべて開かれており、風通しがよく明るい雰囲気だった。避難所の中心に、カフェスペースや子どもスペースが確保されていた。

昼間の避難所

対応策

① 避難所運営ワークショップ

福岡市では、平成29年度から各校区で避難所運営ワークショップを開催しています。（19ページ参照）
この中で右記の観点から男女共同参画の視点にたった避難所運営について、話し合いを行いましょう。

男女共同参画の視点にたった
内閣府の避難所チェックシート（抜粋）

- □管理責任者への男女両方の配置
- □女性用品（生理用品、下着等）の女性担当者による配布
- □異性の目線が気にならない物干し場、更衣室、授乳室、休養スペース等
- □安全で行きやすい場所の男女別トイレ
- □避難所の巡回警備、暴力を許さない環境づくり

② 博多あん・あん塾

福岡市では、地域や企業の防災力の向上を目的に、平成17年度から防災リーダー（防災士）を養成しています。これまで約1,000名の方が受講され、この中から246名の女性防災士が誕生しています（※平成30年3月末時点）。（20ページ参照）

届けたい思いは一つ

みんなで防災について考えよう

男女共同参画の視点から防災活動を行っている2名の女性。環境や立場は異なりますが、その胸には同じ思いが刻まれていました。

「男女共同参画の視点」は、災害から自分や大切な人々を守る大切な備えです！

まさかの発災はありません！だからこそ、自分の命を自分で守るための日頃の備えが大切です。ご自身の日常を、『もしも今、災害が起きたら』という視点で見直してみましょう。「地域のイベントに参加する」、「非常用持ち出し袋を職場にも用意する」、「家族や職場の連絡網を作っておく」、「健康に留意する」等々、きっとご自身に必要な備えに気づいていただけると思います。

気づいたら実践！
そしてもう一点、熊本地震からの教訓としてお伝えしたいのは、『多様な立場の人々が互いに尊重し合い、思いやることのできる男女共同参画の視点』は、私たちにとって最も大切な備えであるということ。熊本の真の復興にも、この視点は不可欠であると思っています。

熊本市男女共同参画センターはあもにい　館長　藤井 宥貴子

大切な人を守りたいという思いは、誰もが同じはず。防災は物の備えだけでなく知識の備えも必要です。知ることで防げることもあるのです。そして想像力。もしも…を想像し何が必要か、どう行動すべきかを考える。日常に起こることは非常時にはもっとリスクが高まります。その中で生き抜き、守り抜く。災害は突然起こります。もう他人事ではないのです。

防災士　小幡 嘉代さん

避難所づくり ❷

トイレの衛生環境

災害時はトイレが利用できなくなるもの。実情を把握し、特に高齢者や女性の対策を考えておきましょう。

災害時のトイレの実態

益城町では、下水管の損傷や断水によりトイレが利用できない避難所に発災直後から仮設トイレが配備されました。また、下水道が利用できる施設では、プール等から汲み置きした水を使ってトイレを流していました。

掃除の順番やルールを決めよう

仮設トイレ

仮設トイレ

こんな問題や悩みが…

- トイレの臭いが気になる
- 高齢者は段差がある和式トイレは使いづらい
- 照明が暗くて夜間利用が怖い
- 人が大勢いるところのトイレは入りづらい
- 男女のトイレを分けて別の場所に設置してもらいたい
- 汚物で汚れたトイレの掃除が大変
- トイレを我慢することによるエコノミークラス症候群の発症の恐れ

学校等のトイレ

ノロウイルスなどの感染症

バケツにくんだ水を使い水洗式のトイレを使用する場合、水圧で排泄物の一部が周囲に飛び散り感染症を引き起こす恐れがあるので、便器に水を入れるときには十分注意してください。

学校のトイレ

《 福岡市のトイレ対策 》

避難所のトイレが利用できないときは、仮設トイレを配備します。建設現場での利用を主目的とする仮設トイレは、和式が多く、足腰が弱い高齢者にとって使いづらいものとなっています。また、臭いの問題で避難所から少し離れた場所に設置されています。
福岡市では、非常時にすべての避難者が利用できるトイレ環境を確保するため、仮設トイレの配備に加え、携帯トイレや簡易トイレの備蓄、マンホールトイレの整備を行っています。

携帯トイレ

トイレの便座と便器の間に袋をはさみ、便座を下ろしてそのまま用を足します。使用後に凝固剤を投入するタイプと凝固剤が給水シートの袋に圧着されたタイプがあります。
オムツと同様に一般ごみとして廃棄ができるため、在宅避難に備えて家庭でも備蓄しておきましょう！

使い方

各避難所、自治体の指示に従い、処分しましょう。

1

トイレの便座を上げ、便器全体をおおうように袋をかぶせます。

2

便座を下ろしてそのまま用を足します。

3

使用後に付属の凝固剤を投入し、汚物を固めます。

4

袋を外し、空気を適度に抜きます。

5

結束バンドで開口部を結んで閉じます。

簡易トイレ（ラップポン）

熊本地震では水を使わず、特殊フィルムで排泄物の臭いや菌を密封する簡易トイレが重宝されました。福岡市では、この簡易トイレを備蓄しています。

- ◆水を使わず、排泄物を1回毎にラップで密封
- ◆毎回、個包装にして切り離すので常に清潔
- ◆特殊フィルムで臭いや菌を外に漏らさない
- ◆ラップされた袋はオムツと同様の一般廃棄物としての処理が可能
- ◆ラップすることで汚物や吐しゃ物による二次感染を予防

マンホールトイレ

マンホールトイレは、災害時に下水道管路にあるマンホールの上に洋式トイレや上屋を設けて使用します。福岡市では、一部の小・中学校、公民館、公園、体育館でマンホールトイレの整備を行っています。

避難所づくり ③

ペットの避難

ペットに対する備えは基本的に飼い主の責任になります。
熊本地震の事例をもとに、飼い主がやるべきことを学びましょう。

災害時におけるペットの避難について

福岡市の地域防災計画では、飼い主の責任による避難所へのペットとの「同行避難」を原則としています。「同行避難」とは、飼い主がペットを連れて一緒に避難することで、避難所内の同じスペースで一緒に避難生活を送ることを意味するものではありません。

避難所での飼育場所

避難者間のトラブルを防止するためペットの飼育場所は、①避難者の居室と隔離した雨風や暑さ寒さをしのげる場所、②避難者の動線と重ならない場所などでの確保が望まれます。ペットの受け入れが可能かどうかは、施設の規模や構造によって異なりますので、日頃から避難所ごとに検討しておきましょう。

自宅での飼育のすすめ

屋外で飼育されているペットは、飼育場所が安全であれば必ずしも同行避難する必要はありません。また、人にとってもペットにとっても避難所は決して、快適なところではないため、親戚や知人宅等で預かってもらうことができれば、ペットのストレスも軽減されるでしょう。

ペットの一時預かりについて

熊本地震では、被災したペットの救護や飼い主支援のため、被災自治体や獣医師会等との連携のもと、ペット救護本部が設置されました。同本部の支援のもと動物病院のほか、(一社)九州動物福祉協会が運営する熊本地震ペット救援センター(大分県九重町)で被災ペットの一時預かりが行われました。

避難所での様子

飼い主の責任とやるべきこと

ペットを救えるのは飼い主！
災害に備えておきましょう

☑基本的な手続きをしておく
飼い犬登録、狂犬病予防接種を必ず実施。

☑健康管理をする
避難所ではペットにも大きなストレスがかかります。普段から健康状態に注意し、予防接種やノミ・ダニの駆除、去勢・避妊手術を。

☑しつけをしておく
ケージやキャリーバッグに慣らしておく、「待て」などの基本的なしつけ等。

☑身元を示すものをつけておく
鑑札や狂犬病予防注射済票、迷子札をつけましょう。これらは取れる可能性もあるためマイクロチップとの併用が有効です。

☑ペット用の防災用品を準備する
餌や水(5日分以上)、予備の首輪、ケージやシーツ、予防注射の記録やペットの写真等。

☑飼い主仲間や近所の人との連携
普段から人に慣れさせておく、緊急時に預かってくれる人を決めておく等。

ペット事情について
お話を伺ったのは

熊本県健康危機管理課
江川 佳理子さん

行政は、災害時は人命救助が最優先です。避難所でペットの受け入れはできても、発災直後はそれ以上の支援は出来ないのが現状です。遠方で預かってくれる人を家族で話し合ったり、いざというときに備えて準備できることはたくさんあります。一人ひとりが自助(自分のことを自分で守ること)に努めましょう。